

エレン・G・ホワイト(Ellen Gould White)の戒め(警告)等

エレン・ホワイトはセブンスデー・アドベンチスト教団(SDA)の創立等に多大な影響を与えたリーダーの一人であり、多くの著作や証言を通じて教団の信仰・教育・健康・組織運営などに関して深い洞察を与えました(個人的には、彼女の著作である「証の書―あかしのふみ」の各書を聖書の学びの参考として用いています)。

エレン・ホワイトが教団運営や信仰生活において強く嫌い、戒め(警告)を発していた、主な事項は以下のようなものです。

1. 権威主義的・中央集権的な運営

エレン・ホワイトは、個々の信徒の霊的自由を重んじ、教会運営があまりに官僚的になったり、少数のリーダーが全てを支配するような状態を嫌いました。

彼女は、「神はすべての働き人に直接語られる」ことを強調し、組織の硬直化を避けるよう警告しました。

→権威主義的な教会運営への警告

『教会への証 第9巻(Testimonies for the Church, Vol. 9)』p. 278(原文書籍の頁、以下同)

“The church is not to be governed by the opinions or dictates of men. God has given direction and authority through the guidance of His Holy Spirit.”

「教会は人間の意見や命令によって支配されるべきではない。神はご自身の聖霊の導きによって方向と権威を与えられている。」

→権威主義と中央集権に対する警告

『教会への証 第8巻(Testimonies for the Church, Vol. 8)』p. 236

“There is danger of centering too much power in one man’s hands.”

「一人の人間にあまりにも多くの権力を集中させることには危険がある。」

彼女は、リーダー個人による支配を危険視し、話し合いや聖霊による導きの重要性を説いています。

2. 教会指導者による自己栄光の追求

『教会への証 第5巻』p. 738

“When men begin to flatter themselves that they are favorites of Heaven, the danger is great that they will fall under the temptations of Satan.”

「自分は天に特別に愛されていると人が思い上がり始めたとき、その人がサタンの誘惑に陥る危険は非常に大きい。」

リーダーや教師であっても自己満足に陥れば、墮落と分裂のもとになると戒めています。

3. 富や権力への執着

信仰者や指導者が地位や富、名声を追い求めることを「サタンの策略」として非難しました。

教会は謙遜と自己犠牲をもって導くべきであり、贅沢や自己中心的な生き方を排除すべきだとしました。

→富や地位への執着への非難

『各時代の希望(The Desire of Ages)』p. 523

“The love of money, the desire for gain, the spirit of selfishness, has brought terrible evils to the world.”

「金銭への愛、利益を求める欲、自己中心の精神が、世界にもたらした災いは計り知れない。」

4. 形式主義・外面的信仰

礼拝や安息日遵守が「形式的」になり、心からの献身が欠けることを厳しく警告しました。

「信仰の本質」を忘れて儀式や教義(教理)ばかりにこだわることを嫌いました。

→形式主義への警告

『各時代の大争闘(The Great Controversy)』 p. 463

“The greatest want of the world is the want of men—men who will not be bought or sold... men who will stand for the right though the heavens fall.”

「この世が最も必要としているのは、人に買われも売られもしない人々、天が落ちようとも正義のために立つ人々である。」

この文脈では、神の真理に立ち続ける人が形式的な信仰者と対比されており、表面的な宗教儀式への依存を戒めています。

→形式主義・儀式主義への批判

『各時代の大争闘(The Great Controversy)』 p. 572

“The religion of Christ means more than the forgiveness of sin; it means taking away our sins, and filling the vacuum with the graces of the Holy Spirit.”

「キリストの宗教とは、罪の赦し以上のものを意味する。それは、罪を取り除き、聖霊の恵みによって空白を満たすことである。」

単なる赦しや礼拝の形式だけでは足りず、心の中の変化と聖霊の臨在が伴うべきと彼女は述べます。

5. 神の導きを待たずに急いで計画すること

特に伝道や組織改革の際に、人間の計画と判断だけで動くことを警告しました。

「祈りと熟慮を通して神の導きを受けるべき」と繰り返し述べています。

→性急な計画や自己の判断への依存の危険

『教会への証 第5巻(Testimonies for the Church, Vol. 5)』 p. 429

“Many are in danger of rushing ahead of Christ. They seek to act before He has spoken, to take upon themselves responsibilities He has not laid upon them.”

「多くの人がキリストの前を走り出してしまう危険にさらされています。神がまだ語られていないのに行動し、神が任せていない責任を自分に負わせようとするのです。」

→神の導きを待たずに急ぐことへの警告

『教会への証 第5巻』 p. 721

“Many are in danger of moving too hastily, without praying and waiting for divine direction.”

「多くの人が、祈らず、神の導きを待たずに、性急に行動してしまう危険にある。」

教会の決断や改革、開拓伝道などでも、計画よりも神の導きを優先すべきだと説いています。

6. 信仰を名目にした批判精神と分裂

自分の信仰理解が他者より正しいと信じて対立を引き起こすことを戒めました。

真の改革者は愛と謙遜に満ちた態度であるべきと述べています。

→批判的精神や分裂を引き起こす態度

『各時代の希望(The Desire of Ages)』 p. 306

“He who seeks to build up self will fall. Christ’s followers are to shine as lights in the world, not by self-assertion, but by the grace of God.”

「自分を高めようとする者は倒れる。キリストの弟子たちは、自己主張によってではなく、神の恵みによって世の光とならねばならない。」

教義(教理)や規則を楯にして他者を非難する態度は、キリストの精神と相容れないと明言しています。

7. 教育の世俗化・無神論的知識の重視

神を中心としない教育を厳しく批判し、キリスト中心の教育の必要性を強調しました。

「高等教育」に見せかけた懐疑主義・進化論・理性万能主義に強く反発しました。

→教育の世俗化への警告

『キリストの教育(Education)』 p. 13

“True education means more than the perusal of a certain course of study... It is the harmonious development of the physical, the mental, and the spiritual powers.”

「真の教育とは、単なる課程の修了を意味するものではない。身体、精神、霊性の調和の取れた発達を意味する。」

→教育の世俗化への批判

『キリストの教育(Education)』 p. 17

“The greatest want of the world is the want of men who will not be bought or sold... men who are true and honest in the inmost soul.”

「世界が最も必要としているのは、金で買われることも売られることもない人々、心の奥底まで誠実な人々である。」

教育は単に知識を伝えるのではなく、品性を築き、神への忠誠を育てるものとされました。

8. 健康原則の軽視

彼女は「健康改革」を神からの啓示として重視しており、信徒が喫煙、飲酒、不摂生な生活を続けることに強く反対しました。

教会指導者であっても健康原則を無視する者には厳しい言葉を投げかけました。

→健康原則の軽視に対する警告

『教会への証 第2巻(Testimonies for the Church, Vol. 2)』 p. 70

“The health reform, I was shown, is a part of the third angel’s message and is just as closely connected with it as are the arm and hand with the human body.”

「健康改革は第三天使のメッセージの一部であり、腕と手が体と密接に結ばれているのと同じように、それと不可分なものであると示されました。」

→健康原則の軽視・・・㊦種々の考え方(見解)があることを承知の上、そのまま記載しています。

『健康と食物に関する証(Counsels on Diet and Foods)』 p. 32

“Those who indulge in meat-eating, tea, and coffee are violating the principles of health reform.”

「肉食、紅茶、コーヒーを楽しむ者たちは、健康改革の原則に反している。」

これは特に、教会の指導者が健康原則を軽んじていることへの強い非難の文脈で出されています。

これらは、エレン・ホワイトが「神への信頼」「個々の霊的責任」「誠実な生き方」を重視し、それに反するものを厳しく戒めていたことを示しています。

上記文章は、①エレン・G・ホワイトの生涯および②ChatGPT データを参考に作成しています。

誤記等がございましたら、ご一報ください。

セブンスデー・アドベンチスト教団 三田聖書研究会 谷 口 一
andy2011@zeus.eonet.ne.jp